

京都府図書館等連絡協議会実務研修会（南部会場）概要

テーマ：本の紹介方法について

演題：「響く！届く！本紹介を考える」

講師：大林 正智 氏

愛知県豊橋市 文化・スポーツ部 まちなか図書館 職員
(公社) 日本図書館協会 図書紹介事業委員会委員

会場：精華町立図書館 集会室

日時：令和4年1月19日（水）午後2時～4時

参加者数：15名

概要：図書館では、行政機関として発信する広報物や印刷物、館内掲示物等で本を紹介する機会が多い一方で、その紹介方法や文章を書く能力は担当者によって差があるのが現状です。図書館職員全員が魅力的な文章で本を紹介することが出来れば、地域の利用者が本を手にする機会をより増やすことができるのではないかと、この観点から、今回の研修が企画されました。

研修前半では図書館職員にとって本の紹介とは何か、といった概要的な部分を、後半では具体的にどういった手法で地域住民におすすめ本を提示していくのか、本の紹介の添削例を見る形で講演が進められました。

本を「読む」楽しみは、読んでいる最中だけではなく「読む」前後にも存在しています。読む前に本の紹介を見て本を選ぶことや、読んだ後その本の感想を語り合うことなども本を「読む」楽しみのひとつになります。

ブックトークや読書会のような読んだ後の楽しみだけでなく、本の紹介という読む前の楽しみを図書館が提供することで、利用者の読書の楽しみが多角的に増え、さらには利用者が抱く図書館への印象が変革されていくことは、各図書館の存在価値の向上にも繋がります。

本紹介のために必ずしも本を読む必要はなく、通販サイトや書誌データ、資料の奥付やあらすじなど、本文以外のデータから情報を統合して文章を考えても良いという視点は、受講者には一種の衝撃をもって受け取られたようです。

図書館は必要とする人に本を貸す場であることはもちろん、情報を通じた新しい価値観との出会いの場でもあります。また、どんな本にも読者がいる、という理念のもと、新たな本と人とを結ぶ媒介のひとつとして本の紹介が機能するのが理想的だと気づかされました。

後半には、参加者が事前に行った本の紹介文を講師が添削した作例を提示しつつ、具体的な助言をいただきました。普段から本の紹介を書く機会が多い参加者の作品は、とてもよく書けているという総評でした。その中でも、読む人の注意を引き付けるアイキャッチになるようなフレーズを盛り込む、書きたい内容は盛り込みすぎず一つに絞るなど読む人の印象に残りやすくするコツを教わりました。

本の紹介自体は図書館が日常的に行っている取り組みですが、日々続けることで図書館のイメージを大きく変える可能性があります。今回の研修を受け、魅力的な図書館づくりの方法について改めて考え直すきっかけにもなりました。